

第161回くらしの植物苑観察会 2012年8月25日(土)

-朝顔の仲間たち-

仁田坂 英二(九州大学大学院)

アサガオは分類上、ヒルガオ科、イポメア(サツマイモ)属に属する植物ですが、このイポメア属には、アサガオ以外にも観賞目的や作物として栽培されている種類があります。主に日本で栽培されているアサガオは、*Ipomoea nil*という種類で、アサガオの仲間では品種も圧倒的に多く変化に富んでいます。高緯度、冷涼な気候の地域が多い欧米ではうまく育たないためあまり利用されていません。そのため、耐寒性が高い、マルバアサガオ(*I. purpurea*)やソライロアサガオ(*I. tricolor*)が欧米ではよく栽培されています。マルバアサガオは花がしおれるのが非常に早いという欠点がありますが、丈夫で品種はアサガオほど多くありませんが、アサガオには見られない模様の品種もあります。また、アサガオとの種間雑種である曜白アサガオは、これまでアサガオになかった面白い模様で近年非常にポピュラーになりました。ソライロアサガオも品種は少ないのですが、アサガオと比べて澄んだ青い大輪の花が特徴で、午後もしおれず咲いています。ノアサガオは宿根性で、毎年植える必要がないため、暖地ではグリーンカーテンとしてよく利用されるようになりました。他にもごく小さい花を咲かせるルコウソウや、夕顔とも呼ばれる夜咲きのヨルガオなど、品種はほとんど分化していませんが、観賞価値のある種類も園芸的に利用されています。また、アサガオにはない、カロチノイド系色素による濃い黄色の花をつける種類も知られています。

アサガオは下剤として利用されてきたことからわかるように、食用には適しませんが、近縁の重要な作物にサツマイモがあり、花はアサガオによく似ています。日本では、九州南部や南西諸島でしか開花しませんが、交配育種を行う目的で、アサガオの台木にサツマイモを接いで開花を促進することが行われていることから同じ仲間であることがわかります。

イポメア属の植物のほとんどは熱帯アメリカ原産ですが、コロンブスによる新大陸発見以前に、アサガオが日本に、サツマイモがポリネシアに伝播していた記録が残っており、これも大きな謎の一つです。今回の観察会では、これらのアサガオに近縁の植物の来歴や利用について考えてみたいと思います。



アサガオ
Ipomoea nil



アメリカアサガオ
I. hederacea



ルコウソウ
I. quamoclit



ヨルガオ
I. alba



マルバアサガオ
I. purpurea



ノアサガオ
I. indica



ソライロアサガオ
I. tricolor



サツマイモ
I. batatas

.....

次回予告 第162回くらしの植物苑観察会 2012年9月22日(土)
『日本竹譜』とその著者片山直人 樋口雄彦(当館研究部歴史研究系教授)
13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要